

団体紹介:SDGsの取組・湖西フロンティア倶楽部

湖西フロンティア倶楽部は、地域の活性化を目指して平成4年に地域の青年団OBが立ち上げた団体です。メンバーの中には環境教育インストラクター、環境指導員などの資格を持っている人もいます。湖西市北部知波田地区にある「おちばの里親水公園」を管理しながら、公園を拠点に自然保護活動、環境学習活動、地域文化の伝承などを行っています。

■SDGsにつながる取組

浜名湖に注ぐ今川で「今川子ども自然クラブ」を年間10回ほど開催し、ホタル観察会、外来植物の駆除、田植え・稲刈り、森の遊びなどの活動を行っています。今川は、ナガレホトケドジョウなど絶滅危惧種も生息し、生物多様性について学ぶことができる川です。

また、市内にある企業（株デンソー）との協働で親水公園周辺の国有林を借りて森の再生、広葉樹の植樹などの森づくりを行っています。

湖西フロンティア倶楽部では、SDGsが叫ばれる前からSDGsにつながる活動を行ってきました。

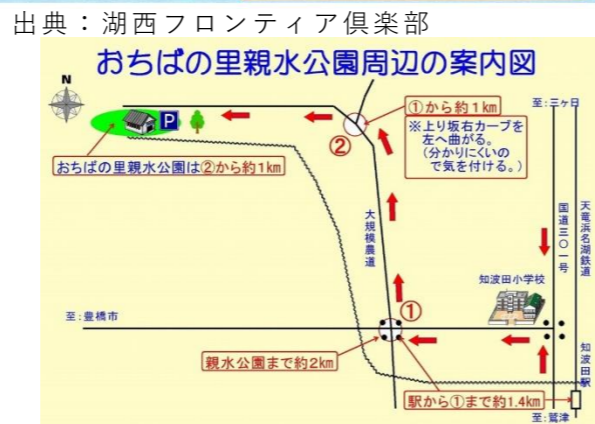
■浜名湖の水環境との関わり

里山の保全・自然体験活動だけでなく、浜名湖のアマモ場観察会も行っており、森と海（湖）の関係についても、学んでいただいております。

はまなご環境ネットワーク「浜名湖エコキッズ体験塾」として、おちばの里親水公園で同倶楽部による環境学習プログラムを提供した実績もあります。

浜名湖の水質浄化の取組としては、知波田地区の湖岸に生えているヨシ原の保全活動（ヨシの刈取り）を行っています。ヨシは水中の窒素・リンを吸い取り、有機物を分解する作用があり、水質浄化の効果があります。なお、冬場にヨシが枯れるとヘドロ化してしまうことから昔から枯れる前に刈って、茅葺屋根やヨシズ、壁の材料など人々の生活の中で活用し、循環型社会へ取り入れてきました。当倶楽部では、刈り取ったヨシをたい肥として再利用したり、刈取作業と併せて湖岸のごみ拾いなどの清掃活動も行っています。

近年、SDGsの考え方や取組が社会に浸透していると感じています「浜名湖の環境」が持続可能で次世代に継承できるよう、これからも多くの団体や企業と協働していきたいと考えています。


出典: 湖西フロンティア倶楽部

湖西フロンティア倶楽部 事務局

住所 湖西市白須賀589(片山方) 電話 090-1291-3210 E-mail kosaifront@yahoo.co.jp

浜名湖環境保全団体情報誌 第37号

はまなご環境通信

発行/静岡県(はまなご環境ネットワーク)
発行日/令和4年3月4日
事務局/NPO法人地域づくりサポートネット
浜松市中区常盤町133-13
Tel.053-458-3480
Eメール info@shizuoka-t.net



令和3年度浜名湖環境活動団体交流会を開催しました

- 日時 令和4年1月15日(土) 13:30~17:00
- 場所 舞阪協働センター 2階講座室1
- プログラム

- (1)講演 「SDGsによる浜名湖の環境活動」
- (2)リレートーク
 - 1) 情報提供(静岡県くらし・環境部環境局自然保護課)
 - 2) 活動紹介(各団体から)
- (3)意見交換会「SDGsを取り入れた浜名湖の環境保全活動」



■講演「SDGsによる浜名湖の環境活動」

講師: 浜松いわた信用金庫 SDGs推進部 副部長 竹内嘉邦氏

竹内氏は、学校、企業、市民団体に対してSDGsに関する講演や普及啓発を行っており、今回はSDGsと浜名湖の環境活動をテーマに講演してもらいました。

●SDGsと浜名湖の環境

国連は、持続可能な開発目標として、17の項目を列挙しています。どれも、大切な項目ですが、「浜名湖の環境」に対しては、17番目の「パートナーシップ」による様々な団体の連携が最も重要と考えます。

「浜名湖の環境」に対しては、自然・観光・文化等、様々な要素が絡んでおり、次世代に渡って、持続可能な状態で繋いでいくためには、多種多様な団体との連携が欠かせません。

これからも、この素晴らしい「浜名湖の環境」を維持し、永続していくためには「はまなご環境ネットワーク」のように横断的な、活発で継続的な活動をしていく必要があると感じます。

●SDGsに対する取組のキーワード

講師の竹内氏からは、次の3点について、意識することが重要と意見をいただきました。

項目	内容
1 身近な存在のイメージ	主観的に捉え、SDGsへの取組や問題意識を自分の身近なものとしてイメージしよう!
2 感謝のイメージ	他者に喜ばれ「ありがとう」と言われることをイメージしよう!
3 実際の行動	(1)、(2)のイメージから、想定できる活動をできる範囲でやってみよう!

●浜名湖とSDGsは親和性の宝庫

☆浜名湖の環境は多くのSDGsと関連! 親和性が非常に高い!



●浜名湖とSDGsの親和性

☆海洋資源、環境、生態系、産業、健康、教育!

- ・豊かな自然環境が多様な生態系を構築
- ・水産業としての産業振興、浜名湖が企業活動の基盤
- ・恵まれた魚介類の提供により栄養、健康に寄与
- ・都田川など幾つもの川が流れ込み生態系を維持
- ・浜名湖の価値を未来につなげる教育として展開
- ・自治体、企業、個人、多様なパートナーシップ構築



浜名湖とSDGsについて話された竹内氏の講演資料より



SDGsについて語る竹内氏

■リレートーク

●オイスカ高校自然科学部(荻氏)

本校は国際 NGO に協力しており、環境や SDG s の取組を熱心に行っています。学校は庄内湖に面しており、平成 11 年からマングローブを湖岸に植えています。マングローブの干潟では水質調査や生きもの観察をしており、地域の環境学習の場として提供しています。

東日本大震災の復興支援活動を機に、遠州灘の防潮堤にクロマツを植樹する活動を行っています。松枯れが目立ち、浜名湖岸でもクロマツの植樹ができる場所を探しています。



●浜名湖ガーデンパーク(落合氏)

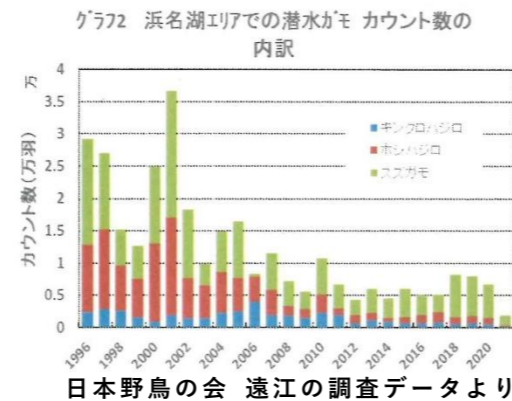
新型コロナウイルスの影響で、当パークの来場者も減っています。新型コロナウイルスの収束が見通せない状況が続きますが、昨年度と同様「浜名湖環境パネル展」を1月29日～2月27日の間、体験学習館において開催する予定です。昨年度のパネル展では、はまなご環境ネットワークからも多くの団体に出展してもらいました。今回も参加団体を募集しているので、ぜひご参加いただきたいと思ひます。

※まん延防止等重点措置によりこのパネル展は中止になってしまいました。



●日本野鳥の会遠江(増田氏)

会として SDG s にも取り組んでおり、ガンカモ調査を 1989 年から 32 年間実施しています。はまなご環境ネットワークの集まりの中で、アサリが減っているという話を聞いて「野鳥とアサリ」の関係について調べたところ、潜水型(潜って貝を食べる)の鳥は、浜名湖で 1996 年 3 万→2021 年 2 千羽と大きく減少していました。このことは、アサリの漁獲減と何か関係があるかも知れません。今後もこのような調査を継続して行っていきたいと考えています。



●湖西フロンティア倶楽部(片山事務局長)

私たちの団体の活動目的は、里山等における持続可能な社会の推進です。そのため、竹内氏の講演でもあるように、SDG s の目的に大変、類似しております。

現在、森づくりや棚田の整備活動等を通じて、自然の豊かさや自然との共生について、子どもたちに知ってもらう機会を創出しています。

山・森を守ることが海を守ることに繋がると思っており、自然観察会や保全活動を通して、浜名湖を知ることができると考えています。

●NPO 法人浜名湖フォーラム(間瀬理事)

静岡大学と共同でアマモの種から苗を育てる実験を行っており、舞阪小学校、三ヶ日中学校、ウォットなどにアマモの種を配って、アマモの苗を育てる協力をしてもらっています。

今後とも、大学や企業等、様々な団体とも協働していきたいと考えています。

団体の抱える課題として、NPO の事務局を担う人材がいいため、事務局機能の支援を行政等に実施していただきたいです。



種から苗にアマモを育成

●東海ビル管理(株)(渚園指定管理者・鈴木施設長)

渚園では浜名湖を知ってもらうため様々な体験を行う予定で多様な団体に講師をお願いしていましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。

渚園にキャンプ場を開設したのは 20 年前であり、現在は空前のキャンプブームです。キャンプは密が避けられることや、当キャンプ場が「ゆるキャン△」のロケ地として登場したことで、多くの来場者が来ています。週末は、140 サイトが満場です。

今後の展望として、敷地内の松枯れが激しく、これまで松の木で風を除けていましたが、西風をまともに受けるのでなんとかしたいと考えています。皆さんの中でよい知恵があればお貸しください。



■意見交換:「SDG s を取り入れた浜名湖の環境保全活動」

●浜名っ娘クラブ

浜名漁協の女性会の有志として立ち上げた団体で、浜名湖のシラスを活用した手づくりコロケなどの商品を作って販売しており、徐々に声をかけていただける事業者などが増えています。イベントを開催する際は出店の声掛けをしてもらえたら幸いです。



●浜名湖シーカヤックツアーズ

弁天島で子どもたちに樹齢 130 年の杉を材料に古代の丸木舟を作ってもらい、丸木舟に乗る体験をするイベントを提供しています。弁天島海浜公園に丸木舟を 2 曹置いてあるので、体験してみたいと思う方はぜひお声かけください。



●浜松市市民協働センター

当センターは、企業や NPO をつなげる中間支援を行っており、SDG s を通じて皆さんのマッチングが生まれています。浜松市全域の団体からの相談や情報発信などの支援をしていますが、今後は浜名湖地域の交流支援も行っていけると考えています。



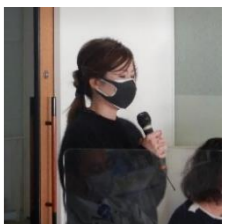
●舞坂の自然を守る会

弁天島のいかり瀬で外来植物の駆除、町民の森(防風林の中)の駆除、草刈を行っています。新型コロナウイルスの影響により、思うように活動ができていません。当団体の課題は、会員の高齢化です。いかにして若い会員を呼び込み、継続的な活動に発展させていくか検討していく必要があると考えています。その他、活動に参加していただける人を随時募集中です。活動に興味ある方がいましたらご紹介いただくと幸いです。



●スズキ株式会社環境課

当部署では、SDG s やカーボンニュートラルについて取り組んでいます。はまなご環境ネットワークには、CSR 活動などの一環で関わっていますが、単独での活動ではなく、多くの市民団体や学校、行政機関等と連携して活動しているので、今後ははまなご環境ネットワークの活動には企業として協力していきたいと考えています。



■総括:はまなご環境ネットワーク 芥川代表

真に「豊かな浜名湖」とはどのようなことか、もう少し議論しないといけないと思いました。湖の中で営みをする人、暮らす人、それぞれとらえ方が違います。そこでラムサール条約の考え方の環境・経済・社会のバランスが重要になり、これは SDG s の考え方とも一致します。

今後は、講師の所属企業である「浜松いわた信用金庫」とも新たに連携し、SDG s の 17 番目の項目「パートナーシップ」を通じて、活動が活性化していけたら幸いです。

